

震災から1年近く 仮設住宅でもまだまだ支援が必要

2/18 移動なんでも相談会 山元町東田仮設住宅



被災した子どもも元気に餅つき



相談にのる熊谷美香さんと郷古洋子さん



宮城民医連から参加の皆さん

2月18日(土)山元町東田仮設住宅にて「移動なんでも相談会」が開かれました。宮城民医連から12名が参加し、健康・医療相談と支援物資の提供、炊き出しの支援をしました。また、坂総合病院で実習中の九州大学医学部の学生さんも参加しました。

健康・医療相談は16名で、血圧の高い方が多く、そのほとんどは、震災後に中断して服薬していないため、近医受診を勧めました。お隣のブースでは、労働問題や土地・住宅被害の相談に訪れる方もいました。支援物資は、米・野菜等の食料品、日用品、衣料品、また、東京都葛飾区上平井中学校生徒会より文房具と駄菓子の詰め合わせが200セットとランドセルが寄贈され、大変喜ばれていました。

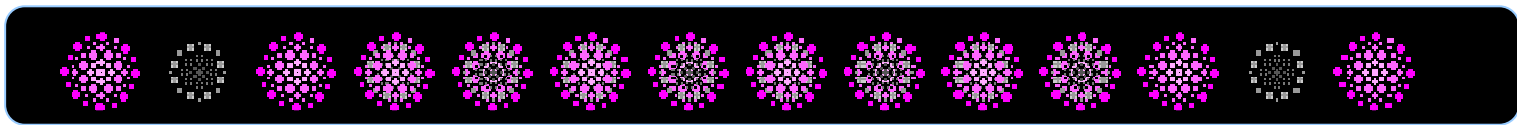
参加した職員は、健康・医療相談の他に歩行が困難な仮設住宅の住民のお宅に支援物資を届けたり、たくさんの荷物を抱えている高齢者や障害を持っている方の手伝いをしました。運びながらいろいろお聞きすると、「仮設住宅は寒いし、結露がひどい」「ストーブを点けたくても集合住宅だから危ないと思って点けていない」「買い物に行くのにも、近くにお店がなくて大変」等々の話が出ました。

支援物資お届けの他に、あんこ餅・きなこ餅を作るお手伝いもしました。お餅は、神奈川県在住の個人の方が宮城災対連に寄贈してくださった臼(なんと!御影石製)と杵でその場でついたお餅です。お餅ができるのを待っていた子どもたちや仮設住宅で工事の仕事をしていた若者も巻き込んで、餅つきをしてもらいました。当日は風がとても強く、きなこ餅を作っていた支援者はきなこまみれになりながら大奮闘しました。

楽しい時間を提供できたかなと思いますが、なんでも相談会にお見えになる被災者が増えていることを考えると、震災から1年近く経つのに何も復興していないこと、まだまだ支援が必要であることを感じました。(高橋 敦子)



がんばろう東北!



秋田からも”応援しているよ”のメッセージ

2月17日から19日にかけて、田沢湖高原「雪まつり」が、田沢湖スキー場特設会場(秋田県)で開催された。

雪まつりでは、雪像コンテスト、火振りかまくら、紙風船あげなどが行われたが、18日の夜、真冬の夜空を華麗に彩った大輪の花火の前には、ゲレンデに「絆」の文字が浮かび上がった。同じ東北で被災した人たちのために、「秋田からも応援しているよ」のメッセージがはっきりと伝わってきた。がんばろう東北!



2/18 ゲレンデに浮かび上がった「絆」の文字